

JELA NEWS

ジェラニュース 第68号

2025年12月15日 発行

発行責任者 渡辺 薫

公益財団法人 JELA

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 TEL.03-3447-1521 FAX.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援事業／世界の子ども支援事業／奉仕者育成事業／緊急災害支援事業

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はつきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイによる福音書25章35~36、40節)



備えられた「出会い」「祈り」「奉仕」 アメリカ・ワークキャンプ2025 参加者レポート(P4, 5)

世界の子ども支援

カンボジア・ポーサット州に小学校とプレスクール完成(P3) / カンボジア・コンポンスプー州に14棟目のプレスクールが完成(P4) / 「グローバルフェスタJAPAN2025」に参展(P3)

難民支援

JELA難民奨学生の声:オスマン・アドさん、テ・トウ・パンさん(P7)

奉仕者育成

アメリカ・ワークキャンプ2025 参加者レポート(P4, 5) / ディアコニア奨学生、今年も集いました!(P6) / アメリカ・ワークキャンプ2026募集(P8)

その他の記事

JELAチャリティ・イベント2025:『人生の最期に、何を語り合えるのか』岡田圭氏が講演(P6) / 職員募集(P8) / 支援者一覧(P8) / 編集後記(P8)

カンボジア・ポーサット州に小学校とプレスクール完成!

子どもたちによりよい学習環境を



ポーサット州クルトトゥン村に完成した小学校(左)とプレスクール(右)

JELAのカンボジア現地パートナー「Lutheran Hope Cambodia Organization」(ルーテル・ホープ・カンボジア・オーガニゼーション=LHCO)が、日本政府による開発途上国支援の一つ「草の根・人間の安全保障無償資金協力」(草の根無償)を受けて、ポーサット州のクルトトゥン村に建設していた小学校が完成し、10月21日に開校式が盛大に開かれました。



開校式会場にて

式典には、植野篤志駐カンボジア日本国特命全権大使、LHCOのタイ・ボネ事務局長、JELAの古屋四朗理事長、ローウェル・グリテベック理事、奈良部慎平事務長が出席し、同校で学ぶ生徒、教師、職員、地域住民など 1,000人以上が参加しました。

新しいクルトトゥン小学校には、5つの教室と図書室のほか、独立した個室トイレが5つ、洗面スペースもあります。この小学校建設プロジェクトは、LHCOとJELAが農村地域に質の高い教育と安全な学習環境を提供することを目的に2022年

から計画してきました。校舎とトイレの建物の総工費1,280万円は草の根無償でまかなわれました。JELAは草の根無償の申請手続きなどの後方支援に加え、電気の引き込み工事費、学校の看板などの付帯費用を負担し、同時に、敷地内にプレスクール(小学校へ入学する前の子どもが通う幼稚園)を建設しました。

式典の後、小学校建設プロジェクト関係者が完成した校舎を視察し、

550人超の小学生にとって安全で快適な学習環境が確保されていることを確認しました。



新小学校の開校を喜ぶ子どもたち

開校式での JELA古屋理事長による式辞

JELAは過去20年間、子どもの教育をはじめカンボジアの人々の生活向上に貢献してきました。この度、クルトトゥン小学校が完成し、大変嬉しく思っています。これは、日本政府のご支援によるものです。心より感謝申し上げます。



JELAは、この敷地内にプレスクールの建設をしました。小学校とプレスクールが完成した今、地域住民の方々に、常に学校を維持し、先生方を支え、共に子どもたちを育てていっていただきたいと思います。こうした取り組みを通して、草の根レベルの質の高い教育が広がっていくことを願っています。

JELAが建設したプレスクールは、最大45名の子どもが一堂に学べるワンルームの建物です。日本から持参した絵本(JELAがグローバルフェスタJAPAN2025で人気投票を行って選んだ5冊)とJELA支援者が寄付してくださったクレヨン、色鉛筆などの学用品を贈呈すると、案内してくださった教職員や校長先生が満面の笑みを見せてくれました。また、今回は、東京都の草苑幼稚園の園児や、草苑保育専門学校の学生の皆さんもこの日のために絵画や装飾品、福笑いゲームなどを手からご準備下さり、JELAに託してくださいました。

今後も、JELAはLHCOと共に同地域の子どもたちの教育環境の整備に取り組んでまいります。皆さまからのご支援は、カンボジアの子ども達の教材や絵本の購入のために用いさせていただきます。今後もご支援のほどよろしくお願ひいたします。

カンボジア・コンポンスプー州に 14棟目のプレスクールが完成！

ポーサット州のプレスクールに加え、今年JELAはもう一棟のプレスクールをコンポンスプー州アオラル地区タサルコムーンのダウンチョン村に建設しました。ダウンチョン村は人口905人（288世帯）の村で、このうち2歳から6歳の児童84人がこのプレスクールに通うことになります。

ポーサット州の小学校開校式の前日、LHCOスタッフとともにJELA視察団が訪問し、このプレスクールのために日本の高校生から捧げられた文具や、園児が描いた絵などを贈りました。このプレスクールは、JELAカンボジアに建てた14棟目となりますが、近隣の村でも人気のようで、この日近隣の村からやってきたという男性からも「私の村にもプレスクールを作ってほしい」との切実な声が聞かれました。農村地域の

プレスクールのニーズを改めて感じ、支援が必要な地域をサポートできるように、今後もJELAは現地パートナーと連携してまいります。



完成したプレスクール
(コンポンスプー州ダウンチョン村)



日本の園児の作品を披露する
古屋理事長

「グローバルフェスタJAPAN 2025」に出展！ カンボジアの子どもたちに贈る絵本の人気投票

今回JELAがカンボジアの小学校とプレスクールに寄贈した絵本は、9月27・28日の2日間、新宿住友ビル三角広場（東京都新宿区）で開催された「グローバルフェスタJAPAN」（グローバルフェスタJAPAN 2025実行委員会主催）で、JELAのブースで「世界の子どもに贈りたい日本の絵本」として選ばれたものです。

グローバルフェスタJAPAN開催期間の2日間で、680人超の方がJELAブースを訪れてくださいました。絵本の投票に協力してくださいました。絵本の投票では、『ぐりとぐら』『からすのパン屋さん』『スイミー』『どうぞのいす』『あんぱんまん』が上位5冊に選ばれました。

5冊の絵本の贈り物はポーサット州の小学校とプレスクールに届けら

れ、小学校の先生たちは、「絵がかわいいので子どもたちが喜ぶと思う」と喜んでくださいました。

本紙前号（67号）で呼びかけたカンボジアに文房具を届けるキャンペーンでは、多くの方がたくさんの文具をお送りくださいました。JELAスタッフが無事にコンポンスプー州とポーサット州の支援地にお届けすることができました。

グローバルフェスタJAPANでJELAブースにご来場くださいました皆さま、文房具のキャンペーンで寄付をしてくださいました皆さま、ご協力をありがとうございました！





Workcamp in Scranton, PA
Homestay in Baltimore, MD

2001年の開始以来、JELAは約20年に渡って毎年のようにアメリカの「グループ・ワークキャンプ」へ家屋修繕ボランティアを派遣してきました。7月18日～29日の期間で行われた今年のキャンプのテーマは「Equipped」。キリストの愛をもって仕え、周囲に良い影響を与える者へと成長すべく16名が参加しました。レポートの一部を掲載いたします。

blessed with love

石崎 愛結(高1)

(二度目の参加ですが) 私はキャンプに参加するのが正直不安でした。共にワークを行うクルーに、通常日本人は1人だけで、自分にはやっていけないような気がしていたからです。実際、クルーには日本人は私1人だけで今後がすごく怖くなりました。クルーのみんなはとても気さくでほとんど英語がわからない私に諦めずに伝えようしてくれ、私も毎日全力で人と関わることができました。現地の方々の温かさと明るさに本当に救われたこの瞬間が、私にとってこれが一番「Equipped」を感じた場面でした。



通じ合える瞬間

和田 詩(高2)

ワークが始まって1日目の夜、今まで日本で学んできた単語や文法が無意味に感じるほど、国境を越えたコミュニケーションの難しさを痛感し、日本では感じない孤独を覚えました。しかし、現地の人々は英語が理解できない私を温かく受け入れ、優しく接してくれたおかげで徐々に打ち解け、感情を通じ合える瞬間が増えてきました。言葉が通じないからこそ心が通じた時の喜びは大きく、他者とコミュニケーションを取る上では、「正しい英語を話すこと」よりも「伝えようとする気持ち」が大切だと学びました。



長いフライトの後で

奈良部 謙信(中2)

アメリカに住んでいる人たちはすれ違うときに必ず話しかけてくれ、明るく接してくれるので、日本とは初対面の人との接し方が違うなと思いました。また、キャンプに来ていた人はとても優しく、分からぬ事や、しなければいけない事を聞いたら丁寧に答えてくれました。僕もそれを見習って、何かを聞かれたときはできるだけ分かりやすく伝えようと心がけました。時差ボケや長距離のフライトで、キャンプの最初の方はとても疲れましたが、ワークやプログラムを頑張ったことで、良い時間を過ごせました。



Good Fortune

永瀬 千祐(中3)

キャンプで最初に感じたのは、人の性格や価値観の違いです。日本は消極的で周りに合わせることに価値がある印象ですが、アメリカでは何でもやってみたり何かに挑戦したりすることが歓迎され、自分も積極的に動くことで毎日が輝いていきました。また、規模の違いにも驚きました。飛行機から日本を見下ろした時は地面が灰色だったのに対し、着陸の際は広大な緑が目に入り、日本がどれほど小さいか、自分がどれほど小さい事に悩んでいたのかを知って情けなく思いました。キャンプでの経験は、私の物事に対する見方を良い方に変えたと思います。



支え合いと内省

山口 太靖(大1)

私は今回2つの気づきを得ました。まず、「人は支え合って生きている」ということです。ワークを仲間と協力してやり遂げ、言語の壁もジェスチャーや互いの工夫で乗り越えることができ、人とのつながりの大切さを実感しました。次に、「神は常に私たちに必要な備えをしてくれている」ということです。体調不良でプログラムを休まざるを得なかった際、悔しい思いをしましたが、その時間に自分がキャンプに参加した理由を振り返り、考えを深めることができました。その時自分に必要だった内省の時間を神が与えてくれたのだと思いました。



言葉の壁を乗り越えて

菊池 恵那(高2)

今回のテーマは「Equipped」でした。備える、準備する、整えるなどの意味がありますが、キャンプでは「神備」=神様が備えてくださるという和訳が使われました。キャンプの前日に日本人メンバーだけでプログラムを予習することができたり、言葉の壁に戸惑う私に現地の人たちが優しく接してくれたり、たくさんの準備とで整えられ、多くの人と出会うことができたキャンプは神様が備えてくれたものなのだと思います。今回の出会いもこれから備えられている出会いも大切にできますように。



安心から始まった僕の旅

鶴田 航之亮(高1)

昨年は航空機が飛ばないアクシデントがありました。今年は無事に目的地に着いたので安心しました。今回、色々な人のおかげでキャンプが成り立っているということを強く感じました。JELAやGroup Mission Tripsの人たちをはじめ、準備や費用を出してくれた両親、無事を祈ってくれた教会の人たち、心からアメリカを楽しませてくれたホストファミリー、僕たちを安全に移動させてくれた航空会社の人たち。その中でも一番準備をしてくれたのは神様でした。これからもずっと僕の旅路を見守っていてほしいです。



道具箱

池野 雅弥 (高3)

キャンプで、クルー（班）のメンバーでお互いの良いところを言い合う時間があり、そこで僕に向けられた言葉はどれも僕がどんな人かを表す言葉でした。自分がどんな人であるか思い悩んでいる僕にとって、救いの手が差し伸べられたような瞬間でした。自分が紡いだ言葉には不安や祈りといった想いも託されていて、他の人が紡ぐ言葉にもその想いが乗っています。そして、言葉は葛藤、悩み、楽しさといった言葉にならないコトバにも働きかけてくれます。こんなにも素敵なものを作った神様は僕たちの道具箱に備えてくれていたことに気づきました。



笑顔の備え

佐藤 樹莉 (高3)

キャンプで神様が「Equipped」してくれていたと思うのは、笑顔と、前向きな気持ちや人を思いやる気持ちです。英語だけではなく笑顔や仕草でも気持ちを通じ合えることや、「伝えたい」という気持ち、相手をちゃんと受け止める心が大切だと学びました。また、キャンプに飛び込んだ勇気や出会った仲間など、神様が与えてくれた多くの備えによって、今の自分があると感じました。神様が日常の中で私たち一人ひとりに必要なものを前もって備えてくれていることを信じて、これからも前向きに歩んでいきたいと心から思いました。



振り返れば、すべてが与えられたものでした

阿部 奎祐 (高1)

私に一体何が出来るのだろうか、神様は私にどんな役割を与えたのだろうか、そのために私に何が備えられたのかずっと考えていました。

キャンプを終えて、「与えることは自分が満たされることにつながる」と実感しました。作業中の疲れや不安も、誰かの笑顔や仲間の支えに出会うと消えていきました。そして、最後に残ったのは、人のために行動する喜びでした。私はノンクリスチヤンですが、皆と過ごす時間の中で、目に見えない大きな存在を少しだけ感じることが出来たように思います。



新しい場所で感じたあったかい気持ち

橋本 亜優菜 (社会人)

神様が神備

(Equipped) してくれたと感じた瞬間がキャンプでたくさんありました。たとえば、自分が孤独を感じた時に声をかけてくれた友達や、タイミングよく助けてくれたスタッフの存在は、まるで神様が「ひとりじゃないよ」と教えてくれているようでした。人との出会いや支え合いの中に、神様の愛が確かに生きていると実感しました。日本では気づけなかった「人とつながる喜び」や「感謝する心」、そして「神様の存在への気づき」は、これから私の生き方に大きな影響を与えてくれると思います。



神様が私に備えてくださったこと

奈良部 真理 (中1)

日本では、教会以外で同年代の人と信仰や宗教のことを話すことはほとんどありませんが、キャンプを通して、国や文化が異なっても信じることが同じ人たちと出会えました。また、その日のプログラムも日本人グループで振り返り、日本人同士だったら通じる感覚があることを確認できたことも私にとって大きな実りであり、神様が私に備えてくれたことだと感じています。困難なことがあっても、本当に必要としていることはその時々に神様が備えてくださる。そう信じることができる恵み深い体験でした。



全能の神は私に必要なものをすべて備えてくださっている

ヴァンフェロー美杏花 (中3)

臆病だった私がアメリカに行きたいと決心でたこと、そのために両親をはじめ教会の方々やスタッフなど多くの方のサポートがあってキャンプに参加できたこと、キャンプのプログラムや現地の人々との出会いを通して多くを学ぶことができたこと、十分すぎるほど完璧な神様の備えを知ることができました。私の信仰生活はまだまだ浅く始まったばかりですが、これからも神様を信じ、この素晴らしい神様の存在を多くの人たちに宣べ伝えていけるように多くのことを学んでいきたいです。



アメリカにも居た神様

渡辺 讚々美 (高3)

キャンプで私が一番学んだのは、「与えられているものの価値に気づくこと」と、「すべてを用いて神様が私を導いてくださっていること」です。これまで経験してきたこと、挑戦してきたこと、そして失敗してきたことのすべてが、このキャンプの中で活かされていた気がしました。もっと英語を勉強しておけばよかった、もっと努力しておけばよかった、そう思う場面もたくさんありました。それも含めて神様が私に気づかせてくれたことだったと思います。全部が順調だったわけではないけれど、全部に意味があったと思うことができました。



主にあって備えられる

古澤 奈々子 (高3)

初めてのワークキャンプ、とても不安な気持ちから始まりました。英語が苦手なため、孤立してしまうのではないかと緊張していました。しかし、実際にやってみれば、ただ使う言語が違うだけの温かな人達で、人の優しさに触れる経験ができました。私が特に心に残っていることは祈りの時です。もちろん英語なので私には何を祈っているのか理解できませんでしたが、クルー全員で手を繋いでお祈りをし、心が繋がったようなそんな感覚がありました。この祈りの時も神様からEquippedされた出来事だと感じました。



equipped

河井 麻那 (中3)

奉仕とは神様から与えられたものを最大限に使って行うことなのだと、キャンプで感じました。キャンプに直接関係は無くとも、水曜の夜のプログラムで踊るダンスをメンバーが教えてくれたことや、レジデント（ボランティア作業を行う家の住人）がお昼ごはんを用意してくれたことなど、それぞれに与えられた賜物を活かした立派な奉仕なのだと感じました。そして、神様は私の弱さの中にも働き、「あなたでいい」と言ってくださる方なのだと学びました。神様がいつも私たちのそばにおられることを忘れず、信仰をもって歩んでいきたいです。



レポート全文は
こちらから
ご覧ください ➤



JELAチャリティ・イベント2025

『人生の最期に、何を語りえるのか』 元米国ホスピスチャップレン岡田圭氏が講演

JELAは10月17日、2026年のチャリティ・イベントとして、ニューヨークの在宅ホスピス緩和ケアでスピリチュアルケアのカウンセラーとして長らく活動された岡田圭氏をスピーカーにお招きし、チャリティ講演会『人生の最期に、何を語りえるのか』を開催いたしました。

講演で、岡田氏は、これまで経験した出来事や患者さんとの対話を取り上げ、人生の最期の季節を迎えている方々との向き合い方や、自身の心構え、受け止め方などについて話されました。聖書の言葉も引用され、参加者とその大切な人に注がれている「愛」について、会場を包み

込むような優しい口調で語られました。

このチャリティ講演会の内容は、JELA公式YouTubeチャンネル（右下参照）でもご覧いただけます。

イベントには56人の方が参加してくださり、チャリティとして38,800円のご寄付を頂きました。ご寄付は全額JELAの世界の子ども支援事業のために用いさせていただきます。チャリティイベントにご参加、ご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。



JELA公式
YouTubeチャンネル
こちらから▶



奉仕者育成

ディアコニア奨学生、今年も集いました!

JELAは11月8日、JELAディアコニア奨学生を受けて学ぶ方々のためのイベント「ディアコニア奨学生の集い2025」を開催しました。JELAディアコニア奨学生は、国内外の大学や大学院等への進学、研修を希望する方を対象とした給付型の奨学生です。JELAはこの奨学生を通して、イエス・キリストの愛に倣う利他的な働きを表す「ディアコニア」の志をもって学び、経験を積むことを目指す人々を応援しています。

今年の「奨学生の集い」には奨学生のほか、奨学生委員会の委員や事務局職員など、23名が参加しました。当イベントの目的は、同じディアコニアを志して学ぶ奨学生たちが互いの学びを知り、交流し、励まし合う機会を提供することで、2023年から毎年開催されています。今回も昨年同様、奨学生たちによるスピーチが行われ、それぞれの学びの進捗や今後の目標が発表されました。外国の大学院や神学校で学んでいる奨学生や、仕事の



都合で参加が叶わなかった卒業生からはビデオスピーチが寄せられました。会の後半は、立食形式のランチ会や、弦楽四重団「Lyre Quartet」によるミニコンサートが行われ、普段は勉学に忙しい奨学生たちが懇談し、美しい音色に浸るひとときになりました。

今年度の奨学生の専攻科目は、医療、看護、社会福祉、教育、国際協力、神学など多岐に渡りますが、全員が社会や人に「仕える」ことを目指して学んでいます。JELAと一緒に未来の「奉仕者」を応援いただけますと幸いです。



奨学生によるスピーチの様子

JELA難民奨学生の声

JELAは、難民支援事業として難民の方に給付型（返済不要）の2つの奨学金を提供しています。一つは、難民専門学校教育プログラム（Refugee Vocational Education Programme: RVEP）という専門学校で学ぶことに特化した奨学金でJELAと国連難民高等弁務官駐日事務所（UNHCR）、公益財団法人ウェスレー財団の三者で運営しています。もう一つは、フィロクセニア奨学金という高等教育機関での学びをサポートするJELA独自の事業です。今回は、RVEPとフィロクセニアで学んでいる方から学業の成果をお寄せいただきましたので紹介いたします。

大阪万博で実感 「伝える力」の大切さ

日本電子専門学校 オスマン・アスアド（2年生）

私はRVEP生として日本電子専門学校でWebデザインを学んでいます。今夏、私は「善通寺まちづくりプロジェクト」に参加して、Expo 2025 大阪・関西万博で善通寺市の魅力を発信する刺激的で貴重な経験をしました。



万博の会場では、善通寺の良さを日本語と英語でさまざまな国の方に伝えることができました。ブースでは、AR（拡張現実）技術を使って、地図に私たちのチームのiPadをかざすと善通寺市や香川県の名物や歴史が表示される仕組みを紹介しました。特に、「讃岐うどん」や地元のお祭り、観光スポットなどを分かりやすく来場者に見せることができ、皆さんから「おもしろい!」「行ってみたい!」「まるで地元の人みたいだね」という声をいただきました、とても嬉しかったです。多くの国の方々と交流し、「伝える力」の大切さを実感しました。この経験は、私にとって大きな学びとなりました。また、各国のパビリオンを見て、文化や技術、未来へのビジョンに触れることができました。

学業の面では、私のチームの制作物が複数のコンテストで入賞し、特にKAO株式会社向けに制作した「たまごっち風ゲーム」のサービス提案は、KAOの担当者に高く評価され「今すぐ使える内容です」と言っていただきました。また、宇宙をテーマにしたモバイルアプリ（太陽系を楽しく学べるアプリ）も完成しました。

RVEPを通じてWebやITの勉強ができることに喜びを感じています。心から感謝しています。



中国の大学で発表 「高齢者の健康とデジタルスキル」について

順天堂大学博士課程 テ・トウ・パン（3年生）

JELAフィロクセニア奨学金のおかげで、研究に専念することができ、国際的な学術交流の場に参加する貴重な機会を得ることができました。



10月20日から23日にかけて、私は北京航空航天大学主催の「University Partners Summit Hangzhou 2025」に招待され、研究成果を発表する機会を得ました。本サミットは、中国・上海にて開催された「第23回国際人材交流大会（CIEP）」の一環として開催されたものです。



私は、「日本・韓国・シンガポール・タイにおける高齢者のデジタルスキルと健康アウトカムに関する国際比較研究」と題したパネルに登壇し、研究の成果を発表しました。

発表では、最近発表された関連論文をもとに、デジタルスキルやデジタル技術の使用が高齢者の健康や健康促進にどのように影響しているかを発表しました。会では特にデジタルスキルが「社会的健康決定要因」として機能する可能性について議論が活発に交わされました。私は、高齢者がSNSアプリを通じて社会的つながりを維持していること、文化的背景に根ざしたインターネット利用が健康的なライフスタイルの選択や医療・介護サービスへのアクセス向上に寄与している点を紹介しました。この研究成果は、12名の国際的な教授・研究者との共著によるものであり、グローバルヘルス研究の学際的かつ多文化的な性質を反映しています。このような貴重な経験を通じて、国際的な視野を広げるとともに、研究者としての成長を実感しております。

今後も、JELA奨学金の名前になっている「フィロクセニア（異邦人への愛、おもてなし）」の精神を胸に、国際的な連携と貢献を目指してまいります。

公益財団法人JELA 総合職(経理・総務)職員募集

JELAはこのたび、総合職の職員を募集します。キリストの愛をもって共に世に仕える仲間となつて下さる方のご応募をお待ちしております。

募集要項(抜粋)

求める人材	当財団の理念(キリストの愛をもって日本と世界の助けを必要とする人々に仕える)に共感し、当財団の価値向上の力となる人材
職種	総合職(主に経理・総務)
雇用形態	正社員(試用期間3か月)
募集期間	2026年1月9日(金)までとしますが、この間に応募のあった方から隨時審査・面接を実施し、採用内定者が決まりましたら締め切ります。
業務内容	経理・総務業務の他、当財団が運営する公益目的事業にも積極的に取り組んで下さる方を募集します。
勤務地	当財団事務局(東京都渋谷区)
勤務時間	9:00~17:00(休憩60分)
給与	当財団規程による(経験・能力を考慮、昇給・賞与あり)
休日・休暇	完全週休2日制(土日)、祝日、夏季休暇、クリスマス休暇及び年末年始休暇、有給休暇、慶弔休暇、特別休暇等
待遇・福利厚生	健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険完備、通勤交通費支給、入社時研修・スキルアップ研修、退職金支給

詳しくは右の2次元コードから!



支援者一覧(2025年7月1日~10月31日)

青木孝士/渥美千鶴子/浅野直樹/阿部稔子/池田哲也/池永清/石森寿幸・京子/磯貝高士/井上新/江崎啓子/大石千絵/小川副代/川崎松風/菊池一生城/工藤達晃/古庄理世/後藤田さなえ/小長谷ヤヨコ/斎藤智子/深川ひろみ/杉浦りえ/辻裕子/中野重夫/永瀬安恒/西垣親子/野口久志/芳賀明子/芳賀美江/原怜子/原田美知子/平林洋子/廣幸朝子/福島智恵子/福地明子/古屋四朗/保坂和子/間瀬啓允/松岡俊一郎/水口博幸/みなど和夫/南節子/南谷なほみ/三宅洸子/棟方玲子/村岡晶子/村上貞子/森部信/森保宏/吉田万里子/ハーベト・タ仏・ミストリーズ/リエオノ/一般社団法人UTMOST/聖書フォーブ委員会/恵比寿聖書フォーラム/グレイス合唱団/国際基督教大学高等学校/野村證券株式会社/JELC市ヶ谷教会/JELC玉名教会(以上順不同・敬称略)

ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせください。

Follow us!



〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
TEL 03-3447-1521 Fax 03-3447-1523
✉ www.jela.or.jp ⏓ jela@jela.or.jp

2026年夏開催 アメリカワークキャンプ参加者募集!



派遣期間 2026年7月17日(金)~7月28日(火)

テーマ 「Illuminate」

内容 ヨハネによる福音書1章1~18節
ミネソタ州で一週間のワークキャンプ(家屋修繕、聖書の学び等を通して信仰的・人間的成长を促す催し)に参加し、同州または近接州でホームステイもします。

年齢制限 2026年7月1日現在の年齢が14~20歳であること。

参加費用 36万円 ※友達を誘って参加する場合、本人・友人の参加費から5,000円ずつ割引! JELAサポート割もあります。詳しくは募集要項をご覧ください。

募集人数 16名 ※申込多数の場合は選考がございます。
締切 2026年4月末日 必着

募集要項の詳細や応募方法は、ホームページ
(www.jela.or.jp)で公開いたします。
皆さまの参加を心よりお待ちしています!

編集後記

Blessing in Disguise という好きな言葉があります。見ると悪いことや不運に見えることが、実は神の祝福であった、という意味の言葉です。

人生には大小様々な思いがけない災難、困難がつきものです。自力ではいかんともしがたい袋小路を経験することもあるでしょう。しかし、放蕩息子が飢餓に直面して父の家に帰ることが出来たという聖書の逸話もあります。世の中のすべてのことが神との関係に目を向けるきっかけになることを考えると、困難・苦難にある方が心で神に助けを求める結果としてJELAの公益事業に行きついたなら、JELAはその方にとってのBlessing in Disguiseになりうるかもしれません。

今年も、いくつもの祝福、いくつものチャレンジがあったことと思います。私たちに良いものしか与えず、すべてを良いものに変えて下さる神が確かにおられるこ

とを思い出すクリスマス、年末年始となりますように。

2026年もJELAをよろしくお願いいたします。(渡辺薫)

JELAの公益活動を継続的に支える JELAサポーターになりませんか?

年1,000円から!
クレジットカードの自動定期決済をご利用いただけます。

詳しくは [JELAサポーター](#) で検索

JELAへの寄付金は税制優遇の対象となります!
寄付方法や寄付控除の詳細については
JELAのウェブサイトをご覧ください。

